

久留米大学

御井図書館ニュース

No. 65 2007年9月1日発行

牛にも歴史があるのです

経済学部長 江藤彰彦

牛疫は、おもに牛が感染する、致死率90%に及ぶ家畜伝染病である。私の研究対象である江戸時代の社会では、17世紀に二度大流行し、そのたびに西日本の牛はほぼ壊滅状態に陥った。しかし、歴史家の眼は、家畜伝染病にまではなかなか及ばないようで、牛疫流行の事実をまったく考慮に入れないまま、流行で激減した状態からの牛数の「増加」を、小農民経営確立の証左だと主張する論者がいまだに出没する。江戸時代の牛疫流行についての信頼にたる研究も、現役の獣医だった岸浩氏による一連の論文が唯一、というのが現状。戦前、皇国史観が幅をきかした時代、その頭領であった平泉澄氏は、農民史を卒業論文のテーマに定めた学生を「豚に歴史がありますか？」と一蹴したという。このエピソードを過去のものとして一笑に付すところまで、まだたどりついていないようである。

ただし、それにはそれなりの余儀ない事情もある。実は、第一回目の牛疫流行（1638-42年）については、幕府の公式記録には残らないような対応がとられたのである。深刻な被害を受けた西日本の諸藩では、各藩の江戸の重役たちが集まって、幕府へ報告すべきかどうかを議論した。その結果、公式の報告はせず、内々で幕府重役の耳に入れておくことと決定、こうして被害の実態は、表の世界から姿を消してしまった。これも、岸浩氏が明らかにした事実である。

そこで、牛疫で牛がほぼ死に尽すと何が起きるのか、その全体像を知るために、イギリスで1865年から67年にかけて起きた牛疫流行の顛末を勉強することにした。冷蔵技術がないために生きた牛が輸入され、深夜のロンドンの街中を家畜の群れが歩いていた時代、よちよち歩きを始めた細菌学が自然発生説と格闘していた時代である。勉強を始めてみると、これは実に面白いテーマであった。家畜伝染病という切り口から、工業化・都市化が進むイギリス社会の姿が、政治的な対立を含めて、くっきりと現れてきた。牛もりっぱに歴史を語れるのである。

そういう眼で17世紀の日本における二度の流行を見た場合、私たちの常識を大きく揺さぶるのは、いずれの場合も牛疫が朝鮮半島を経由して侵入した事実だろう。そして、朝鮮半島へ牛疫をもたらしたのは、支配領域の拡大を図る後金（後の清朝）の侵入であった。言い換えれば、中国における明清交代期の動乱が、西日本の牛をなぎ倒したのである。アジアの波は江戸時代を通じて日本列島を洗い続けており、「ウィルスの世界に鎖国令は通用しなかった」（岸浩氏）のであった。

デジタル化時代の読書

商学部商学科 山本真衣

読書とは書物を読むことです。書物とは、単に活字だけの本をいうわけではありません。小説を読むことが好きな人もいれば、美術書を見る人もいます。どちらも読書といえるのではないのでしょうか。

デジタル化が進むにつれて、私達の読書の幅はますます広がってきています。その一つに「携帯小説」があります。ネット上に著者が小説を公開し閲覧させるというもので、本を手にすることなく、携帯端末で手軽に読書をする事ができます。

以前、携帯小説を読む事は読書とは言えない、と指摘された事があります。しかし、携帯小説も立派な書物の一つと考えて良いのではないのでしょうか。実際、携帯小説が紙の媒体で発行され大ヒットしている例もあります。同じ文章をインターネット上で公開するか、印刷されて製本しているかの違いだけなのです。内容の完成度等の面から言えば、一概には言えませんが、携帯小説にも、読み物として興味や関心を持って楽しめる作品が多々あります。「本」というものに抵抗を感じて読書に興味を持ってない人も、携帯小説は読むという事が現実にあるのです。

また、参考文献も読書対象の一例として挙げられます。私たち学生がレポート等を作成する際に、インターネットを利用している人も多いのではないのでしょうか。ネットを利用する事により、情報量の多さを活用し、自分の得たい情報を瞬時に探す事ができます。もちろん図書館にある参考文献を否定してはいけません。実際、図書館にはネット上にはない情報も多々あり、その蔵書を利用する事もあります。

インターネット上には間違っただけの偽の情報もあり、それを自ら見分けなくてはなりません。だから私達は、知識を得るものとして、手軽に利用できるネットだけではなく、様々なものを利用する必要があるのです。ネットと図書館、どちらにも膨大な情報が含まれており、それをいかに有効に利用するかという事は、私達一人一人が自己責任で判断しなければなりません。

デジタル化は、これから先も拡大し続け、いずれ、図書館にある膨大な資料・情報がデジタルデータとして圧縮・保存される日が来るでしょう。しかし、書物を手にとって読むからこそ理解される情報もあるし、図書館という落ち着いた静かな空間で過ごす事によって、日常とは違った気持ちに浸れることも、図書館のメリットなのです。



寄 贈 図 書 (学内関係者)

2007/05/01~2007/07/31受入分

寄贈者氏名	著 者	タ イ ト ル	出 版 社
大 家 重 夫	大家重夫著	著作権を確立した人々： 福沢諭吉先生、水野錬太郎博士、プラーゲ博士… 第2版（成文堂選書：39）	成文堂
大 家 重 夫	大家重夫著	唱歌【コヒノボリ】【チューリップ】と著作権：国文学者藤村作と長女 近藤宮子とその時代	全音楽譜出版社
大 家 重 夫	大家重夫編	著作権文献・資料目録2005	著作権資料協会
大 家 重 夫	大家重夫著	肖像権 新版（ユニ知的所有権ボックス：No.7）	太田出版
中川原 徳 仁	足立忠夫著	学際的研究論：神学・医学・法学・建築学・行政学・政治学	ぎょうせい
中川原 徳 仁	原岡一馬編著	人間行動の心理学	ナカニシヤ出版
中川原 徳 仁	土方直史著	協同思想の形成：前期オウエンの研究 （中央大学学術図書：31）	中央大学出版部
中川原 徳 仁	足立忠夫著	職業としての公務員：その生理と病理	公務職員研修協会
中川原 徳 仁	高寄昇三〔ほか〕 共編	地方政治と市民自治	玄文社
中川原 徳 仁	嶋田英男編	法と生活 第4版新訂	創言社
中川原 徳 仁	自由法曹団編	憲法判例をつくる：自由法曹団が選んだ50の判例	日本評論社
中川原 徳 仁	高松靖著 愛媛大学法学会編	家族法論集（愛媛大学法学会叢書：6）	成文堂
中川原 徳 仁	国際学術シンポジウム の記録編集委員会編	市場社会の警告：シンポジウム市場社会と共生の原理	現代思潮社
中川原 徳 仁	アミン・ラジャン著 藤原豊司、大西史郎訳	ECのゼロサム・ゲーム：市場統合とビジネス・雇用・教育	多賀出版
中川原 徳 仁	古賀昭典編著	社会保障論 新版（minerva社会福祉基本図書：9）	ミネルヴァ書房
中川原 徳 仁	林竹二著	教育の再生をもとめて：湊川でおこったこと	筑摩書房
中川原 徳 仁	河内俊英著	これだけは知ってほしい生き物の科学と環境の科学	共立出版
中川原 徳 仁	河内俊英、桜谷 保之著	動物の生態と環境：動物との共生をめざして	共立出版
中川原 徳 仁	松原新一著	幻影のコンミュン：「サークル村」を検証する	創言社
田 中 義 充	ヘルムート・ティー リケ著 田中義充訳	ゲーテとキリスト教	文芸社
吉 田 洋 一	研究代表者 島善高著	「江藤新平関係文書の総合調査」研究成果報告書 （科学研究費補助金（基盤研究（B）（1））研究成果報 告：平成16年度～平成18年度）	江藤新平関係 文書研究会

※敬称略50音順



KURUME UNIVERSITY SINCE 1928

久留米大学は2008年に創立80周年を迎えます。

よくあるご質問にお答えします

○蔵書検索をして、御井図書館に所蔵していない図書を借りる場合は、どのようにしたらいいですか？

1. **医学図書館に所蔵がある場合**

検索結果画面の **予約** ボタンをクリックして下さい。

学内便にて御井図書館に搬送されますので、貸出カウンターでお受取り下さい。

貸出期間は1週間 料金は無料です。

2. **久留米大学附設中高等学校図書館に所蔵がある場合**

現物貸借依頼の申込みをして下さい。

学内便にて御井図書館に搬送されますので、相互貸借・レファレンスカウンターでお受取り下さい。

貸出期間は2週間 料金は無料です。

3. **久留米市立図書館に所蔵がある場合**

現物貸借依頼の申込みをして下さい。

久留米市立図書館の業務車より搬送されますので、相互貸借・レファレンスカウンターでお受取り下さい。

貸出期間は4週間 料金は無料です。

4. **他大学の図書館に所蔵がある場合**

現物貸借依頼の申込みをして下さい。

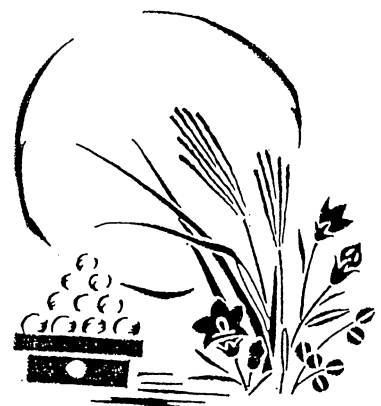
依頼館より郵送されますので、相互貸借・レファレンスカウンターでお受取り下さい。

貸出期間は2週間～4週間 料金は有料です。(往復の送料代)

*久留米大学附設中高等学校図書館・久留米市立図書館の

蔵書検索画面へは、御井図書館のホームページ **各種リンク**

をクリックして下さい。



寄贈紹介



「幕末の三舟」のうち山岡鉄舟、高橋泥舟の書が、塩川正隆氏（現塩川総合企画株式会社代表取締役）を通じて坂木茂太郎氏より寄贈されました。

図書館2階貴重本室にて保管しております。鑑賞希望の方は、事前にカウンターまでお申し出下さい。（尚、土・日曜日及び時間外は鑑賞できません。）

*参考図書

「幕末の三舟：海舟・鉄舟・泥舟の生きかた」（講談社選書メチエ89）

松本健一著 東京 講談社 1996年

図書館利用状況（2007年度）

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
開館日数		28	28	30	31	29	146
入館者数	前年同期比	-5,975	-4,731	-539	6,216	-2,374	-7,403
	学内者	22,246	26,659	30,339	44,414	11,997	135,655
	前年同期比	-106	-83	-94	-97	43	-337
	その他学外者	128	264	326	172	300	1,190
地域住民登録者数	前年同期比	-8	1	-5	21	22	31
		22	19	13	27	43	124
貸出冊数 (学生)	前年同期比	-147	506	-68	-326	-389	-424
	全体	1,462	2,598	2,425	2,706	916	10,107
	前年同期比	66	106	-34	-88	-48	2
	内、夜間	371	681	663	692	167	2,574
	前年同期比	-30	-15	44	-129	-53	-183
	内、土、日曜	112	184	163	201	103	763
一人当たりの貸出数	0.23	0.40	0.38	0.42	0.14	1.57	
貸出冊数 (教職員)	前年同期比	9	57	-65	-75	-9	-83
	全体	523	338	304	241	166	1,572
	前年同期比	18	41	31	-60	14	44
	内、夜間	103	98	140	77	45	463
	前年同期比	-49	11	32	-23	-6	-35
内、土、日曜	24	26	50	10	6	116	
貸出冊数 (その他学外者)	前年同期比	-45	31	62	85	63	196
	全体	97	164	234	152	162	809
	前年同期比	-5	7	21	21	20	64
	内、夜間	32	61	95	54	29	271
	前年同期比	9	4	19	49	35	116
内、土、日曜	30	31	56	58	57	232	
AVライブラリー 利用件数	前年同期比	0	-15	-29	0	5	-39
	学生	12	11	15	13	15	66
	前年同期比	-5	19	9	7	-4	26
	教職員	23	38	20	13	3	97
	前年同期比	-3	0	-1	1	0	-3
	その他学外者	0	0	0	2	0	2
相互利用 (文献複写) 申込件数	前年同期比	-23	-122	-69	-21	-36	-271
	学生	98	92	149	103	43	485
	前年同期比	-34	25	21	-39	-31	-58
	教職員	41	56	44	40	12	193
	前年同期比	0	0	0	0	0	0
その他学外者	0	0	0	0	0	0	
相互利用 (現物貸借) 申込件数	前年同期比	13	7	12	1	-4	29
	学生	14	19	31	17	5	86
	前年同期比	-10	15	3	18	12	38
	教職員	10	24	12	27	22	95
	前年同期比	-1	0	0	0	0	-1
その他学外者	0	0	0	0	0	0	

〈貸出冊数についての注記〉

1. 教職員の貸出には、専任教員の研究室貸出分を含まない。
2. “夜間”とは、平日の17:00～21:00の夜間開館時間を指す。
*なお、4月1日～4月10日、8月6日～9月19日、1月29日～3月31日の期間は夜間開館を行っていない。
3. 地域住民への貸出は、7月10日～8月3日、1月4日～1月28日の期間は停止している。
4. 学生一人当たりの貸出数は、平成19年5月1日現在の御井キャンパスの学生数で算定。

編集・発行 久留米大学御井図書館
〒839-8502 久留米市御井町1635
TEL (0942) 44-4015
FAX (0942) 43-0348
<http://www.mii.kurume-u.ac.jp/miilib/>